

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.175 2011.7.1

戦争と平和展 開催事業



時計博物館
「旧陸軍陸地測量部の置時計」



松本市立博物館
「学校に残る戦争のキオク」
「絵葉書の中の戦争」



大きさにご注目！
磨製石鏃・打製石鏃
考古博物館
「原始・古代の狩猟具と武器から
平和を考える」



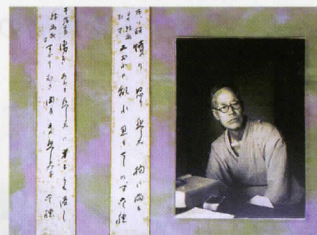
歴史の里
「写真に見る巣鴨プリズン」



山と自然博物館
「里山に残る黒塗りにされた白壁
～里山と戦争～」



テミスの像
はかり資料館
「平和をはかる」



窪田空穂記念館
「詩歌でたどる戦争と平和への想い」



馬場家住宅
「馬場称徳展」



旧制高等学校記念館
「戦時下の旧制高等学校」



旧開智学校
「子どもと戦争
～開智国民学校の資料から～」

戦争と平和展

第23回国連軍縮会議 in 松本 開催記念特別企画

会場 松本まるごと博物館各施設
会期 平成23年 7月2日(土)～8月21日(日)

特別記念講演 テーマ「平和はつくれるか？」

講師／伊勢崎賢治氏
(東京外国語大学大学院教授)

無料

平成23年 7月16日(土) 午後2時～3時30分

【会場】総合社会福祉センター4階 大会議室
【問合せ】博物館 TEL.32-0133 FAX.32-8974

- もくじ 誌上博物館 ◇ 特別企画「戦争と平和展」によせて 2
 松本の七夕と「まちなか展示」 3
 マンダラーチベット・ネパールの仏たち 4-5
 特別展『日本の鉄道と時計
 ～世界一正確な運行を支えたモノ～』開催によせて ... 6-7
 ガイドコーナーはんでんぼく 8

まるごと博物館連携事業 第23回国連軍縮会議 in 松本開催記念 特別企画「戦争と平和展」によせて

はじめに

本年、松本市が「平和都市宣言」を発して25周年となるのを機に、第23回国連軍縮会議 in 松本が開催されます。松本まるごと博物館ではこれを記念し、各館の連携事業として特別企画「戦争と平和展」を開催します。各館で開催する企画展の中から、見所の一部を紹介します。



《竹内靖長 市本松》 活生車貸 物館松中八第 祭魂招聯十五第兵歩 松本五十連隊招魂祭の様子

1 市立博物館「学校に残る戦争のキオク」 「絵葉書の中の戦争」

「学校に残る戦争のキオク」では、学校の郷土資料室などに残っている戦時中の資料を展示します。戦争の記憶を永く伝えるため、地域の人々から寄贈された資料は、現在、子どもたちに平和の大切さを伝える資料となっています。まさに「戦争と平和展」にぴったりのモノたちです。当時の生活用具や子どもの玩具、金属供出でなくなった鐘の代わりに時を知らせていた太鼓など、学校に残る様々な資料を展示します。

「絵葉書の中の戦争」では、市立博物館に豊富に残る絵葉書を紹介します。勇ましい場面だけでなく、ほっと和むような場面まで、色々な戦時中の様子をご覧ください。

2 旧開智学校

「子どもと戦争～開智国民学校の資料から」

昭和16年(1941)4月、「小学校」の呼称が廃止され「国民学校」へと変わりました。旧開智学校に保存されている膨大な教育資料の中には、この頃の子どもの絵や作文なども含まれています。それらには、「お国のために」や「戦争のために」という表現が多くみられ、子どもたちの教育にも軍国主義化が進んでいたことがわかります。こうした戦時下の教育資料と、終戦後のものを対比し、教育における平和の尊さを紹介します。

3 時計博物館「旧陸軍陸地測量部の置時計」

昭和19年(1944)、戦況の悪化とともに東京も頻繁に空襲にあっていました。当時、東京三宅坂にあった日本の地図を司る陸軍陸地測量部(現・国土地理院)は、空襲の難から地図資料を守るため、長野県波田村(現松本市波田)の波田国民学校に疎開しました。この時、三宅坂の庁舎正面玄関に置かれていた高さ2mものイギリス製置時計も、組織とともに波田へ運ばれました。終戦を迎えると、当時の参謀は「陸軍陸地測量部」の名称を「内務省地理調査所」に変更し、日本の地図資料を進駐軍の手から守りました。こうした様子を見守っていた置時計は、その後波田小学校へ寄贈され、現在は時計博物館に展示されています。

4 歴史の里「写真にみる巣鴨プリズン」

巣鴨プリズンとは、昭和20年(1945)11月から昭和33年5月までの間に、太平洋戦争で連合国から戦犯とされた人々たちを収監した施設です。この場所には現在、サンシャインシティ(東京都豊島区)が建っており、隣接している公園の平和碑だけが、かつて巣鴨プリズンがあった事を伝えています。

歴史の里では、昭和27年から解散されるまでの間に、刑務官が撮影した貴重な写真を所蔵しています。今回の企画展では、写真に写った巣鴨プリズンの様子を紹介し、戦争と平和についてあらためて考えるきっかけとします。



巣鴨プリズンの遠景

おわりに

今回の松本まるごと博物館の特別企画では、「戦争と平和」という統一したテーマで連携し、各施設の特徴を生かした視線で展示を行ってみました。実施している10施設の展示から、あらためて平和の尊さを考えていただければ幸いです。

(博物館・学芸員／竹内靖長)

松本の七夕と「まちなか展示」



緑町の七夕飾り

「松本の七夕」は今年で7年目を迎えます。これはまるごと博物館と地元との夏の協働事業として発展してきました。この事業では、企画展や七夕人形の飾りつけを市立博物館と各附属館で行う一方、博物館周辺の町会や商店街にお願いし、月遅れの七夕にあわせ、民家や店舗に紙の七夕人形を飾っていただきます。また、大名町通りの街灯には、七夕人形型の看板を笹飾りと共に飾り付けます。この光景は新たな松本の夏の風物詩になりつつあります。

私たちはこれを「まちなか展示」と呼んでいますが、「まち全体が博物館」というまるごと博物館のコンセプトに沿ったものと納得していただけるのではないのでしょうか。今回はこの「まちなか展示」の誕生のきっかけとその準備を紹介します。

1 「まちなか展示」の始まり

現在は「まちなか展示」と呼んでいる事業ですが、その初回は2005年（平成17年）に「七夕人形のある風景」を再現しようといわれました。この年の4月に、当館の収蔵する七夕人形コレクションが重要有形民俗文化財指定50周年を迎えた記念として、文化庁から芸術拠点形成事業の支援を受けたことがきっかけです。記念事業では市立博物館の特別展だけでなく、「まる博七夕コラボレーション」として、各附属館でも七夕の企画展や飾りつけを始めました。

この時、博物館はもうひとつの事業も企画しました。松本商店街連盟と中心市街地の各町会にお願いし、七夕人形のある城下町の風景を演出しようと考えたのです。これが「まちなか展示」の始まりです。

2 自主的な「まちなか展示」

このように博物館では七夕人形のある風景を再現してきましたが、実はこれに先行して市民主体の七

夕普及の動きが1985年（昭和60年）に「松本の七夕を考える会」として緑町で開催され、当時博物館にも協力要請があったのです。これは現在も自主的な取り組みとして続いているようで、8月7日が近づくと、それぞれの軒下に晴れ着をきた七夕人形が並ぶ通りがあります。

3 「まちなか展示」準備

このように市民の自主的な活動をもとに始まった「まちなか展示」ですが、2006年以来、その範囲を少しずつ広げています。毎年、城下町を中心に駅前などにも七夕の紙人形が並びますが、昨年は塩尻市域の博物館施設と連携して七夕人形の展示をお願いしました。今年も8月上旬の展示に向けて、準備をしているところです。

もうひとつの恒例の「まちなか展示」として、大名町通りの笹飾りがあります。市立博物館の職員が馬場家住宅から苅ってきた笹を大名町通りに飾り付けているものです。笹に付ける飾りづくりは、職場体験の中学生や大学の学芸員実習生に手伝っていただくこともあります。8月1日頃に完成した笹飾りを用意し、通り沿いの約30本ある街灯の支柱に立て、その上に七夕の看板を付けて行きます。



職員による笹飾り準備

今年も「まつもとの七夕2011」は、まるごと博物館の夏のイベントとして開催されます。さて、この「まちなか展示」、今後は松本の風物詩を超えた新行事、あるいは静かなフェスティバルになっていくのでしょうか。

（博物館／秋山かおり）

まる博コラボレーション企画展示

- | | |
|----------------------------|---------------|
| ①市立博物館「まつもとの七夕2011ー旅する七夕ー」 | 7月16日④～8月21日④ |
| ②重文馬場家住宅「七夕人形展」 | 7月02日④～8月21日④ |
| ③はかり資料館「七夕人形展」 | 7月16日④～8月21日④ |
| ④窪田空穂記念館「七夕人形展」 | 7月06日④～8月21日④ |

マンダラ — チベット・ネパールの仏たち —

Mandala Deities of Tibetan and Nepalese Buddhism

はじめに

21世紀の現代においても、日本人の多くは正月の寺社への初詣、お彼岸・お盆の先祖供養の行事は欠かさず行います。私たちはふだん意識しなくても、日本文化や暮らしの中には仏教が大きな部分を占めているのではないのでしょうか。

紀元前5世紀頃にインドで誕生した仏教は、さまざまに変容を遂げながらアジア各地に波及していきます。紀元前後に起きた大乘仏教の運動は広く中央アジア、チベット、ネパール、中国などに広がりました。この大乘仏教の中で、6・7世紀頃のインドで密教が生まれ、密教文化が盛んになります。

松本市立博物館では今夏、この密教文化のひとつマンダラをテーマに、特別展「マンダラ—チベット・ネパールの仏たち—」(会期／7月30日～9月4日)を開催します。本展では、国立民族学博物館の所蔵資料を中心に神仏像・絵画等109点を展示し、「マンダラとは何か」を考えます。

1 マンダラってなに？

マンダラ(曼荼羅)とは、密教で仏門に入る際の儀式や、悟りを求めて行う修行で使われる宗教

道具(装置)の一種です。マンダラには、仏と神々が住む仏教の世界・宇宙観が、立体物や絵画によって視覚的に表現されます。修行者は自己の身体と宇宙の同一性を経験し、身体=宇宙は心を包む袋であり、背骨は須弥山、肉は大陸、

血管は河川、血はそこを流れる水というように、宇宙との相同関係をもつと考えます。そのため、宇宙も身体も、さらにはひとりひとりの心もマンダラと呼ばれます。マンダラは、宇宙と身体と心が元来は同じものであることを体験するための道具なのです。歴史的には、マンダラはおよそ1500年前にインドで生まれ、ネパール、チベット地方、中国、朝鮮半島などに伝えられました。

日本においては6世紀前半に仏教が伝来した後、遣唐使に派遣された空海や最澄によって9世紀初

頭に密教が伝えられました。特に、唐で積極的に密教を学んだ空海は多くの經典や法具とともに金剛界マンダラと胎藏マンダラを伝えました。

日本の密教は、山を神聖視する在来の信仰と結びついて各地の高所に寺院が建立されるようになり、山岳仏教として発展しました。松本市内には、創建が平安時代に遡る真言宗の山岳系寺院として牛伏寺・若澤寺・放光寺・海岸寺などがあり、松本市域でもマンダラが使われていたと考えられます。

2 展示の見どころ

本展ではインド・ネパールを中心に、チベット・ブータン・モンゴルなどアジア各地の神仏像を用いて、マンダラの構造、歴史をわかりやすく解説します。展示構成は、「仏教のパンテオン(*)」と「仏たちの住む宮殿」の2章に分かれます。

「仏教のパンテオン」では、密教



宝マンダラ



五護陀羅尼マンダラ



ヴァジュラ・ヴァーラーヒー(亥母)図

に登場する神仏たちの姿を階層別に見ることができます。仏（大日如来・釈迦如来・阿弥陀如来など）・秘密仏、菩薩（観自在菩薩・弥勒菩薩・文殊菩薩など）、女神（般若波羅蜜多女・ヨーギニーなど）、護法神、群小神（ヴィシュヌ・シヴァ・ガネーシャなどヒンドゥー教起源の神々）、祖師の順にマンダラの世界を構造的に鑑賞していただきます。

次に「仏たちの住む宮殿」では、ネパールの資料を中心にさまざまなマンダラを展示します。マンダラに住む神々の空間を展観することにより、



文殊菩薩像

ヨーギニー女神像

〔掲載はすべてネパール・国立民族学博物館蔵〕

アジア各地のマンダラがもつ不思議な魅力にふれていただきます。

3 砂絵マンダラの公開製作

展覧会の初日から8月7日（日）にかけて、会場内で、ネパールから招いたチベット仏教僧が砂絵マンダラを公開製作します。これは線描した下書きの上に、色あざやかな砂を置きながら薬師如来マンダラを描き出すもので、砂絵の完成後は、儀礼とともに色砂を川に流します。

マンダラを用いた実際の修行を間近に見られる貴重な機会を演出する予定です。



砂絵マンダラ製作（埼玉県立近代美術館にて 2006年 撮影：財団法人千里文化財団）

おわりに

本展では、南アジアの20世紀のマンダラを通観することにより、日本の文化を振り返りながら、現代における信仰の意義を探ります。

また、松本市はネパール連邦民主共和国の首都でもある岳都カトマンズ市と、姉妹都市の提携を結んでいます。本展でネパールの文化に触れることにより、異なる文化間の相互理解が進展し、国際文化交流の一助となれば幸いです。

今年の夏は、博物館でゆっくりとくつろぎながら、マンダラとそこに住まう神々の空間を体感してみてください。

（館長補佐／関沢 聡）

特別講演会「仏教におけるブッダの姿の変容」

日時 8月27日④ 午後2時～午後4時
会場 松本市立博物館 2階講堂
講師 立川武蔵氏（国立民族学博物館名誉教授）
参加費 無料（特別展をご覧になる場合は観覧料が必要です）

〔※註〕パンテオン

ギリシア語の「すべての神々」に由来し、宗教や神話に登場するすべての神々を意味する言葉。

特別展『日本の鉄道と時計 ～世界一正確な運行を支えたモノ～』 開催によせて

はじめに

首都圏及び中京圏と長野県を結ぶ重要な輸送路である中央本線。「中央東線」や「中央西線」、「中央快速線」など区間や系統別によって様々な呼称があり、それぞれがまるで違う表情を見せることに特徴がある路線です。

明治44年（1911）に全線開通〈昌平橋（現在は廃止）～塩尻～名古屋間〉した中央本線は、本年度で100周年をむかえます。時計博物館ではこれを記念して、世界一正確な運行がおこなわれている日本の鉄道と、それに欠かすことのできない時計をテーマに特別展を開催します。

本稿では、簡単な中央本線の歴史についての紹介と、秒単位の正確性を求められる鉄道時計のプレヒストリーとして、時と日本人とのかかわりについて述べていきます。



① 鉄道用懐中時計

中央本線のあゆみ

中央本線が全線開通したのは明治44年5月1日のことですが、その前身は私鉄（私設鉄道）の甲武鉄道です。甲武鉄道は明治22年4月11日に新宿―立川間が開業します。そして、同年8月11日には



② 建設中の中条陸橋とディーゼル特急しなの



③ 松本駅 特急あすぎ運転出発式

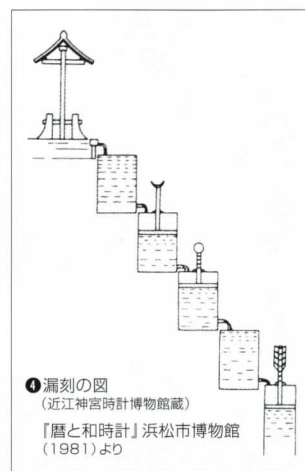
立川―八王子間が延伸開業をしています。その後、国の機関である鉄道局が八王子と名古屋の双方から建設を進め、明治39年に鉄道国有法で甲武鉄道を国有にした上で、明治44年の全線開通へと続いていきます。なお、東京駅に中央本線が達したのは、大正8年のことです。このようにして全線開通をした中央本線はその後、路線の電化や特急の運転開始などを経て現在に至っています。

日本人と時

① 日本人、時刻を知る

日本の鉄道の運行の正確さは世界一ともいわれます。また、日本人の「時間に対する正確さ」は多くの国で高い評価を得ています。時に対する日本人の考え方はどのように形成されてきたのでしょうか。

日本人と時計とのかかわりは約1300年前にさかのぼります。『日本書紀』には天智天皇治世10年（671）4月25日に日本で初めて時を知らせた（公式の時報）ことが記されています。この時使われたのが「漏刻」という水時計です。水海と呼ばれる壺に一定の速さで水を流入させ、水海の水位から時刻を測りました。この「漏刻」を使った時刻制度は奈良時代にも受け継がれ、数百年間にわたって使用されていたと言われています。なお、天智天皇治世10年4月25日を太陽暦に換算すると6月10日にあたります。そのため、大正9年にこの日が「時の記念日」に制定されました。



④ 漏刻の図
（近江神宮時計博物館蔵）

『暦と時計』浜松市博物館
（1981）より

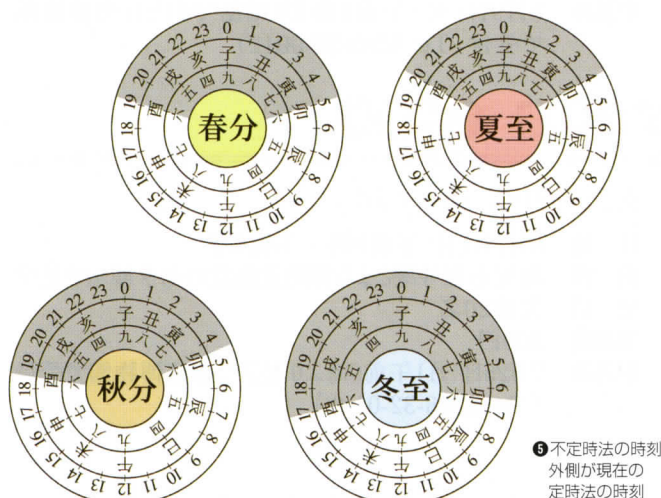
② 機械時計の伝来と不定時法

日本人が時とか時間とかをきちんと意識するようになったのは天智天皇によって時が告げられて以降と考えられます。しかし、時を知るための方法は、漏刻をはじめとする水時計や香時計、日時計といった原始的な時計だけでした。そんな日本に、機械時計が伝来したのは天文20年（1551）のことです。イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが、周防国（山口県）の領主・大内義隆に献上した贈り物の中に時計があったことが『大内義隆記』に記されています。

日本に機械時計が伝来した頃、日本人は独特な時刻制度を使っていました。この時刻制度は自然の

リズムによるもので、昼と夜をそれぞれ六等分したうちの1つを一刻として、季節や地域によってその長さが異なっていました。ヨーロッパの機械時計が刻む、時間の一単位が年間を通じて同じ長さの「定時法」に対して、この独特な時刻制度を「不定時法」といいます。

日本に伝来したヨーロッパの機械時計は定時法にあわせて製作されていましたが、やがて日本の職人たちの手によって不定時法に合うように改良されていきます。これが和時計です。日本独特の不定時法と和時計は、明治5年（1872）の改暦まで、不定時法の時を刻む時計として使われました。



⑤ 不定時法の時刻
外側が現在の
定時法の時刻

3 改暦と鉄道運行

1日は24時間、1時間は60分という機械的に時間を測る太陽暦を採用したのが明治5年の改暦です。それまで、自然のリズムに従った暦法や時法で生活していた当時の人々が、この突然の改暦に戸惑ったことは想像に難くありません。

「不定時法」から「定時法」への時の文明開化ともいべき転換は、年中行事や生活慣習を大きく混乱させましたが、日本全体が近代化に進む中、時計の普及やカレンダーを見る習慣が日本人の中に根付いていきました。

「定時法」が当時の人々の生活に定着するに従い、正確な時計がつくられるようになっていきます。同時に、正確な時計によって運行される鉄道の重要性は高まり、利用者も増えていきました。そして、改暦と鉄道の開通によって日本人の時間に対する意識は大きく変わりました。自然のリズムによる時刻制度での「おおらか」な感覚から、機械的にきめられた時刻制度での「正確・精密さを重視」の感覚へと。



⑥ 時の鐘 大切なとき!!

おわりに

鉄道と時間・時計には深い関わりがあります。鉄道の正確な運行のために精度の高い時計が必要というだけでなく、明治維新後の近代化を進める日本の視点や、鉄道を利用する側からの視点で鉄道と時計の関係を見てみると、新たな関わりが見えてきます。「鉄道の歴史」と「時計の歴史」の2本のレールが交差する、特別展『日本の鉄道と時計～世界一正確な運行を支えたモノ～』（会期／7月30日～9月4日）で新たな発見をしていただければ幸いです。

（松本市時計博物館 学芸員／一ノ瀬幸治）

解説

① 鉄道用懐中時計 大正時代

鉄道の運行管理は、鉄道員のもつ時計によって管理されていました。時計の狂いは大事故につながります。そのため、鉄道員は一般のものよりも高精度を実現した懐中時計を持つ必要がありました。過酷な条件下でも正確に時を刻み続け、なおかつ見やすい時計が鉄道時計と呼ばれています。

② 建設中の中条陸橋とディーゼル特急しなの 昭和45年

特急しなの（名古屋・長野）が運転を開始したのは昭和43年。振り子電車が導入されたのは昭和48年7月10日から。

③ 松本駅 特急あすなろ運転出発式 昭和41年

昭和41年の特急あすなろ運転出発式。181系という特急型車両です。

④ 漏刻の図（近江神宮時計博物館蔵）『暦と和時計』浜松市博物館（1981）より

中国では紀元前の前漢時代から漏刻が使われていたようです。それが日本に渡来し使われるようになったと考えられます。

当時の漏刻は、段差をつけた台に水を満たした銅製の容器を置き、これをサイフォンを使ってより下の段の容器へ水を貯めていきました。最下段の容器に貯まる水量を基準にして、その中に立てた箭（やだけ）の目盛が水上にあらわれるのを読み取ることで時刻を知りました。

⑤ 不定時法の時刻 外側が現在の定時法の時刻

和時計の時刻の呼び方は、現在の午前0時のことを「九ツ」、その後一刻進むごとに「八ツ」「七ツ」「六ツ」「五ツ」「四ツ」と呼びました。昼の12時にはまた「九ツ」に戻りもう一度繰り返します。

⑥ 時の鐘 大切なとき!! 平成23年6月10日 午前3時52分

時の記念日に時を知らせる「時の鐘」を復活させました。東日本大震災の避難者の方や市民学芸員の方に協力をいただき「明け六ツ」の鐘を撞きました。

参考文献

- 『江戸の御時計師』 千賀耕平 桜風舎 2000
- 『世界の古時計』 松本市時計博物館 2002
- 『直伝和の極意 あっぱれ!江戸のテクノロジー』 NHK出版 2011

第23回 国連軍縮会議 in 松本 開催記念

松本まると博物館連携特別企画 戦争と平和展 関連事業

学都松本・博物館「学芸員 松本モノ語り」

日時 7月2日(土) 午後2時～3時30分
会場 松本市立博物館 講堂
内容 「戦争展示を考える」
語り手 秋山かおり(博物館学芸員)
参加費 無料

講演会

日時 7月9日(土) 午後2時～3時
会場 松本市立博物館 講堂
演題 「満蒙開拓の義勇軍として」
講師 佐藤 仁 氏
主催 松本市立博物館・佐藤仁先生講演会実行委員会
参加費 1,000円(テキスト代著書込み)
申込み 往復はがきで松本市立博物館まで

学都松本・博物館「勸館楽学対談」

日時 7月23日(土) 午前10時30分～12時
会場 松本市立博物館 講堂
内容 「学徒動員を語る」
対談者 深澤 整氏、関沢 聡(博物館学芸員)
参加費 無料

バス見学会「黒塗り土蔵見て歩き」

日時 8月20日(土) 午前8時30分～午後4時30分
内容 松本市四賀と安曇野市明科に点在する戦時下に黒く塗られた土蔵の見学
解説 澤柳秀利(山と自然博物館学芸員)
定員 先着20名
参加費 200円
申込み 8月9日(火) 午前9時より電話で山と自然博物館で受付(Tel.0263-38-0012)

松本まると博物館連携企画展 松本の七夕2011 関連事業

七夕人形の掲示

松本まると博物館全施設、市内各地のまちなか展示

ほうとうサービス

日時 8月7日(日) 午前9時～午後4時頃
(無くなり次第終了)
(はかり資料館は午前10時～午後4時頃)
会場 松本市立博物館、馬場家住宅、はかり資料館

七夕人形作り講座

松本市立博物館

日時 8月7日(日) 午前9時～午後4時
受講料 1,000円(材料費)と観覧料
申込み 当日、市立博物館で随時

馬場家住宅

日時 7月16日(土)・23日(土) 午後1時30分～
定員 各回5名
受講料 1,000円(材料費)と観覧料
申込み 電話で馬場家住宅まで(Tel.0263-85-5070)

七夕巡回バス「カータリ号」

日時 8月7日(日) 午前9時～午後4時
内容 塩尻市釜井庵とまる博関連施設の七夕展示を見学
定員 先着20名
参加費 300円
申込み 7月25日(月) 午前9時より電話で市立博物館で受付(Tel.0263-32-0133)

講演会

日時 8月20日(土) 午後2時～3時30分
会場 松本市立博物館 講堂
演題 「南米に広がる七夕祭り」
講師 根川 幸男 氏
(ブラジリア大学准教授)
参加費 無料



ぐるっと15館 3館目から無料となるスタンプをゲットしよう! 7/2日▶8/21日

期間中、松本まると博物館各施設に有料で2館入場いただいた方は、3館目からは無料でご覧いただけます。

- ① 3館目入館時に観覧券(半券)2枚を提示して、スタンプを押してもらってください。
- ② 3館目以降は、スタンプの押された観覧券(半券)を提示いただければ無料で入館できます。

あとがき

新聞に、東北の震災で、塩水に漬かってしまった博物館資料を洗っている新入学芸員のコメントが載っていました。博物館職員もほとんど亡くなってしまったそうです。松本の文化財の地震対策も考えていかなくてはと思いました。(R.Y)

あなたと博物館 No.175

発行年月日/平成23年7月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:<http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社